



委員会視察報告書

委員会名	産業建設常任委員会
視察地	東京都港区
調査項目	港区立産業振興センターの取組について ～中小企業向け支援事業及び創業者向け支援施策を中心に～
調査目的	港区におけるクリエイティブ産業実態調査を用いた港区立産業振興センターの支援策について、特に中小企業向け支援事業及び創業者向け支援施策を中心に調査することを目的に視察を行った。
日時	令和4（2022）年10月11日（火）午後1時～午後3時
場所	港区立産業振興センター 札の辻スクエア
調査概要	<p>東京都港区人口 260,960人（令和4年9月1日） 人口密度 12,811人/km²</p> <p>(1)港区産業振興課の取組 港区が実施している「中小企業振興施策」を中心に、中小企業への支援情報を紹介している。 中小企業向け支援制度では、経営相談や産業財産相談、受発注斡旋相談など各種相談の受付、創業者向け支援施策は創業勉強会、セミナーや各種補助金の案内など創業を考えている方々への支援がある。</p> <p>(2)港区立産業振興センターの取組 「企業・人・地域の力」を一つに結び付ける区の産業振興拠点として最新の情報や技術が提供できる場所となっている。 2階～3階は民間業者、4階～7階まで港区立三田図書館、8階産業振興課・観光政策担当、9階～11階が港区立産業振興センターとなっている。コワーキングスペースでは、月額利用料金を支払えば登記が可能である。個室や会議室など港区外の方も利用可能。 ビジネスサポートファクトリーでは、大量生産する前段階で試作品を作りたいなどの要望に応えられるよう、あらゆる機器が置いてあり、予約をすることで利用可能となっている。</p>

<p>視察の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>産業振興センターでの説明 ビジネスサポートファクトリーにて</p>
<p>質疑応答</p>	<p>質問 中小企業支援と創業支援施策の取組と成果は</p> <p>回答 中小企業支援は「中小企業お役立ちガイド」に記載されている補助金などの取組がある。</p> <p>創業支援施策は「創業のまち MINATO」という冊子があり、その中に創業の準備期から創業後までの制度が記載されている。成果というはまだ指標がなく非常に難しいが港区の開業者の数は多いので取組の成果は上がっていると感じている。</p> <p>質問 産業振興センターの開設に至る経過と理由</p> <p>回答 区立港勤労福祉会館と港区立商工会館を機能再編して開設した。施設の老朽化や移転などの理由から、審議会で方向性が示され、施設の建設に至った。東京都と用地交換を行い、こちらの用地を取得し、平成30（2018）年着工、令和4（2022）年4月に開設となった。</p> <p>質問 中小企業者(区民)の反応は</p> <p>回答 期待する声とともに要望などもある。ここの開設に至っては大きな反対意見はなかった。</p> <p>質問 コワーキングスペース等貸しホールのイベント数の利用率、稼働率</p> <p>回答 全体の稼働率は約40%。会議室、研修室等利用率が67%と高いが、ワークスペースなどヨガ教室等できるようなスペースはコロナ禍で利用を控えているところもあったため、全体の稼働率は落ちている。コワーキングスペースについては、個人利用、法人利用とあるが法人で利用しているのは年343回(延べ利用数)である。</p>
<p>委員会所感</p>	<p>【山本博文】</p> <p>・令和4（2022）年4月に開設された施設は、港区だけでなく、産業振興の拠点として最新の情報の受け皿と技術の提供が出来る場所になっていた。特に、9階にあるビジネスサポートファクトリーでは大量生産する前段階で試作品を作れるよう、総額1億円をかけて整備したあらゆる機械があり、その中でも3Dプリンターやアパレル3D着装シュミ</p>

レーションシステム、高出力のレーザー加工機などが有料で利用可能なことには驚いた。

また、10階のワーキングスペースや、11階の眺望がよく木のぬくもりを感じさせる大、小のホールは、格安料金でセミナーや講演会、式典に活用できる点など、柏崎市にも応用できることから提案したい。

【田邊優香】

・港区立産業振興センターでは、「企業・人・地域の力」を一つに結びつける産業振興拠点として充実した設備や最新の情報を提供している。中でも驚いたのがビジネスサポートファクトリーとして、最新の機器（フルカラーインクジェット3Dプリンター、アパレル3D着装シミュレーションシステム、など特殊で高価な）が利用可能となっており、中小企業や個人事業主の試作品作りに利用されている。

・コワーキングスペースは非常に広く、スタートアップ・起業家・フリーランスの方の活動拠点となっている。組織・世代・性別の垣根を超えた繋がりが持て、情報交換や新たなビジネスアイデアの発見に寄与するようなイベントも行われているという。市内コワーキングスペースでも取り入れることができるのではないかと感じた。

【村田幸多朗】

新産業振興センターでは、あまりにも違い過ぎる立地環境に戸惑ってしまった。JR田町駅から徒歩4分、地上12階建ての港区立「札の辻スクエア」の9～11階を専有する新産業振興センターを視察させていただいたが、アパレル産業育成支援の内容が充実していると感じた。

試作（デザイン・染色・裁断・縫製など）作業の全てで、最新の機器をサポートも含め安価で使用でき、また、購入しづらい高価な3Dプリンターやレーザー加工機もあった。センターの事業成果については、「指標はないが、企業は増加しています。」と実におおらかなお答え。

定員280名収容の大ホールの区民利用料金（13時～17時）は、8,500円の安価。財政力の高さが伺えた。

【秋間一英】

下記について視察してきた。

港区立産業振興センターの取組について

～中小企業向け支援事業及び創業者向け支援施策を中心に～

・「未来発展型の産業振興拠点」となるべく令和4（2022）年4月に開業した施設で、最寄駅から徒歩5分という好立地でアパレル関係企業が連立する地域に打って付けの施設と感じた。

・個人事業主、中小企業が試作に苦慮する特殊で高価な機器が充実しており、業務用でしか見たことがないような設備が多く驚かされた。チャレンジする起業者にとって素晴らしいビジネスサポートであったり、ワントimeファクトリーであったり、支援内容が充実していた。都会で多様なビジネスがあるからこそ起業人に切望された施設ではないだろうか。

・大小ホールも完備されており、多様なニーズに全て対応できていて、しかも格安ときたら使わない手はないのではないかと感じた。

・柏崎市にもホールはあるが、どうしても都会との「差」を感じてしまった。

【持田繁義】

「企業・人・地域の力」を一つに結び付ける区の産業拠点として、最新の情報や技術を提供している。施設内が木のぬくもりを感じ落ち着いたスペースとなっている。大ホール及び小ホールでは、セミナーや式典、後援会などに幅広く利用できるとしている。

コワーキングスペース等は、利用する方々が活動しやすい視点を重視し、最先端技術機器を備えたりボリューション施設として、「未来の創造」を感じさせる。「ビジネスチャンスはここから」をキャッチフレーズに、多様なニーズ、価値観に対応するなか、ビジネス創業を積極的に支援していることが伺える。

【佐藤正典】

港区全体の財政状況にも起因していることは間違いないが、港区立産業振興センターの建物、施設、中小企業者のための貸出機器・設備の充実ぶりには目を見張るものがあった。このことは、直接的には従来の施設の老朽化と再開発・移転によるものだが、区を支えている中小企業者のために、とても丁寧な経営相談窓口も設けており、企業を支えながら、区としても事業者の声を丁寧に産業振興政策に反映させていることが印象に残った。とりわけ、大都市の特徴かもしれないが、若年層を中心とした創業支援に対しては、分かりやすいガイドブックを作成するなど、力を入れている取組であると感じた。港区ではアパレル事業者も多いと伺ったが、今視察での現地説明において、一定の産業・業種に特化した支援、サポートの有効性も興味深いものがあった。

【相澤宗一】

港区立産業振興センター内コワーキングスペースの広さとその設備の

充実さに驚いた。スタートアップ、起業家、フリーランスの方の活動拠点であり、柏崎市内にどの程度のニーズがあるかは調査が必要だが、当市において創業支援の中核となる商工会議所内にそれを受け止める場所があることが望ましいと感じた。

市内業界の動向や市内の空き店舗情報等が集まる場所での出会いも起業、創業の可能性を高めるものと思う。

【柄沢 均】

港区立産業振興センターの見学だったが、同じ建物「札の辻スクエア」内には港区立三田図書館も併設されており、産業振興センターエリアにおいても大小のホール、研修室やコワーキングスペース、ビジネスサポートファクトリーなどが備えられている、多彩で近代的な施設であった。特に地域柄ということであるがアパレル関係のサポートが充実していることが印象的であり、その町の特色をとらえ、サポートを取り組んでいることが参考になる。また、複合的な要素が含まれている施設は、利用者にとって使いやすい施設となっていると感じ、柏崎市にとっても今後考えなければならない要素の一つだと感じた。